

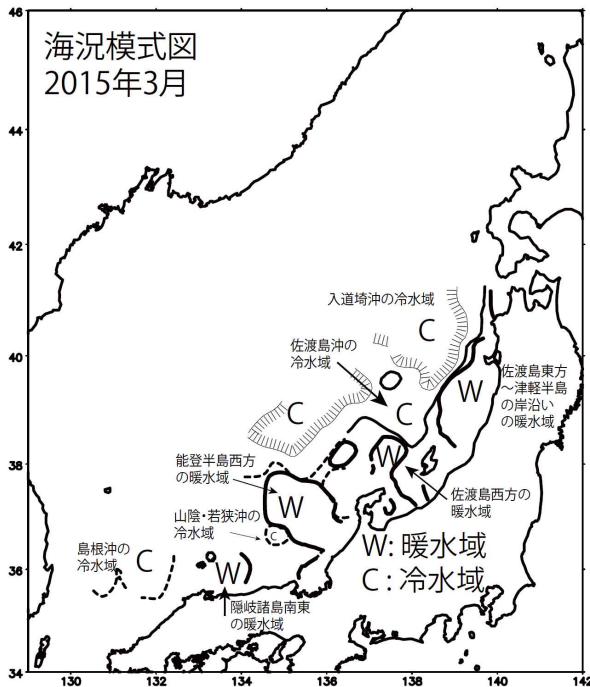


平成27年度 第1回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成27年4月中旬~6月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。



2015年4月中旬~6月の海況

- 能登半島西方の暖水域は、東へ移動して能登半島北方に分布する。
- 隠岐諸島南東の暖水域は、北東へ移動する。
- 佐渡島西方の暖水域は、北東へ移動した後、佐渡島東方~津軽半島の岸沿いの暖水域と合体する。
- 佐渡島東方~津軽半島の岸沿いの暖水域は、勢力を維持しつつ停滞する。
- 島根沖の冷水域の張り出しはやや弱め。
- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは平年並み。
- 佐渡島沖の冷水域の張り出しはやや弱め。
- 入道崎沖の冷水域の張り出しは平年並み。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所業務推進部

担当：檜山、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度 第1回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2015年4月中旬～6月）

- (1) 能登半島西方の暖水域は、東へ移動して能登半島北方に分布する。隠岐諸島南東の暖水域は、北東へ移動する。佐渡島西方の暖水域は、北東へ移動した後、佐渡島東方～津軽半島の岸沿いの暖水域と合体する。佐渡島東方～津軽半島の岸沿いの暖水域は、勢力を維持しつつ停滞する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過（2014年11月～2015年2月）

- (1) 11月に隠岐諸島北東で見られた暖水域は12月にかけて定在しつつ勢力を拡大し、2015年2月に能登半島西方へ移動。11月に佐渡島北西で見られた暖水域は、東進した後2月に消滅。暖水域が12月に津軽半島西方で出現した後、2月に佐渡島東方～津軽半島岸沿いに分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、11月と12月は、規模はやや大きく、接岸状況は平年並み、2月はデータが少なく不明。山陰・若狭沖の冷水域は、11月と12月は、規模はかなり小さくやや離岸、2月はデータが少なく不明。佐渡島沖の冷水域は、11月と12月は、規模はやや小さくやや離岸、2月はデータが少なく不明。入道埼沖の冷水域は、11月と12月は規模・接岸状況とも平年並み、2月はデータが少なく不明。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
11月は、全体的に“平年並み”であったが、隠岐諸島北東では“かなり高め”～“はなはだ高め”。12月は、隠岐諸島東方では“かなり高め”～“はなはだ高め”であったが、能登半島北方から佐渡島東方にかけては“やや高め”。2月は、全体的に“平年並み”であったが、能登半島北西から能登半島東方にかけては“やや高め”～“かなり高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、11月は日本海北部・西部ともに“平年並み”。

3. 現況（2015年3月）

- (1) 暖水域は、能登半島西方、隠岐諸島南東、佐渡島西方、佐渡島東方～津軽半島の岸沿いに分布。
- (2) 島根沖と山陰・若狭沖の冷水域は、規模はやや小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖と入道埼沖の冷水域は、規模・接岸状況とも平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、隠岐諸島南西の沿岸域で“やや低め”～“かなり低め”、佐渡島北西及び津軽半島西方で“やや高め”～“かなり高め”以外は、概ね平年並み。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“平年並み”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

| | |
|---------------------------------------|--|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 | 福井県水産試験場 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 京都府農林水産技術センター 海洋センター |
| 秋田県水産振興センター | 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター |
| 山形県水産試験場 | 鳥取県水産試験場 |
| 新潟県水産海洋研究所 | 島根県水産技術センター |
| 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 | 山口県水産研究センター |
| 石川県水産総合センター | 一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 |